



発行所  
岡崎市立葵中学校  
(電話 21-0171)  
(FAX 21-0172)

7月号



△ワシサポ (ペルマーク集計)

## 一学期を振り返って

校長 柴田 昌一

葵中学校に赴任してから三か月が経ちました。その間、保護者の皆様、地域の皆様には温かい励ましをいただいております、感謝の念に耐えませぬ。

四月、昨年度の学校教育診断の結果を見直しました。その中で、今後さらによい方向にしたいと思ったのは、生徒への質問「学校へ行くことが楽しいか」と、保護者への質問「教師にお子さんのことを気軽に相談できますか」です。いずれの項目も「よくあてはまる」という回答が多くなることが、葵中学校で生活するうえで大切だと考えています。

先日、「外でいっしょに遊びませんか」と生徒が誘ってくれました。休み時間の運動場で、生徒との相撲。前任校で小学生のときにいっしょに遊んだ生徒もいたのですが、体が大きくなり、力も強くなり、ぐっと成長しているのを感じました。いい汗をかきました。翌日はドッジボールに誘ってくれ、行ってみると、前日よりも遊びに参加する生徒がぐっと増え、コートの中には教員の姿も。休み時間終了後、「楽しかった」という声が聞こえてきました。

六月には、修学旅行で三年ぶりに東京へ行くことができました。豊橋駅で出会った一般の方に、「新幹線で修学旅行に行くことができるようになり、よかったですね」と声をかけられました。その方も久しぶりの旅行するとのことでした。新幹線に乗ったとき、生徒から「シートベルトがない、着けなくてもいいの」という声が上がりました。コロナ禍のため、外出を自粛してきたことや、鉄道ではなく自家用車を利用する機会が増えたことに

よる影響を感じた場面でした。

現地では、各自で選択したテーマごとの学習や学級ごとの活動、国会議事堂の見学やデザインシーなど、精力的に活動しました。浅草では、生徒から外国の方に声をかけ、笑顔でコミュニケーションをとっている場面も。これらは、実行委員が生徒の声を生かして修学旅行の準備をしたこと、保護者の皆様がお子様の健康状況や配慮すべき点を三年職員に伝えてくださったこと、生徒一人一人と家族が健康管理に努めてくださったこと、そして、三年職員が万一年に備えて旅行会社と対策案や変更地案を検討し、さまざまなケースを想定して準備をしたことなど、各々の小さな準備と心配りの積み重ねによるものと思います。感謝申し上げます。

ところで、中学校卒業後は義務教育が終わり、各自の進路先に進みます。中学生にとって学びの力は大切です。学校生活の大部分を占める授業が「楽しくなければ授業ではない」「楽しいだけでも授業ではない」となるようにしたいと考えています。そのため、葵中職員で授業を参観し合い、お互いのよさと改善すべきことを話し合い、学び合いました。チームで学ぶことやICTの活用など、有効な方法もわかりました。今後、葵中生が自ら調べたい、学びたいという気持ちを高める授業になるように努めて参ります。

現在、市長杯やコンクールなど、部活動の大会で葵中生が頑張っています。どうぞ温かいご声援をよろしくお願ひします。



▲昼放課、運動場にて

# 葵夏祭り

六月二十七日(月)

## 葵夏祭りを通して感じたこと

一年三組

私は、葵夏祭りを通して良い思い出ができました。友達と気軽にゲームを楽しんだり、仲間と協力して接客したりする中で、自分のクラスだけでなく、他のクラスの人も仲良くなることができました。

私にはもう一つ心に残ったことがあります。祭りを

終えた後の達成感です。準備の時間は少

なかつたですが、みんなで

協力してやり遂げたことで、うれしさ

や感動が込み上げてきました。

これからも、この気持ちを忘れずに物事に励んでいきます。

## 団結したクラスに

二年四組

葵夏祭りでは、僕たちのクラスは「ゴミ箱くず入れ」を担当しました。学年のみんなを楽しませるために、限られた時間の中で、よりよいものにしように準備や練習を全員で行いました。当日は、明るく呼び込む人、ユニークに司会をする人、玉を拾う人、拍手や応援で盛り上げる人など、クラス全員で協力して盛り上げることができました。これからも日々の生活や行事を通して、級訓である「SUNNY」なクラスを目指し、全員で団結していきたいです。

クに司会をする人、玉を拾う人、拍手や応援で盛り上げる人など、クラス全員で協力して盛り上げることができました。これからも日々の生活や行事を通して、級訓である「SUNNY」なクラスを目指し、全員で団結していきたいです。

生徒会役員として行った葵夏祭り。初めて企画・運営をする立場となりました。当日は、どの学年もみんなが笑顔で楽しむ姿を見て、短い準備期間でしたが、自分の役割を果たすことができましたと思います。

葵夏祭りを通して、クラスの絆だけでなく学年の絆も深めることができました。これから多くさんの行事を通して、葵中生全員の力で、もっと葵中を盛り上げていきたいです。

## 初めての企画・運営

生徒会役員

葵夏祭りを通して、クラスの絆だけでなく学年の絆も深めることができました。これから多くさんの行事を通して、葵中生全員の力で、もっと葵中を盛り上げていきたいです。

## PTA役員の皆さんへ

葵夏祭り後の冷たいご褒美、ありがとうございました。

## 伊賀川プロジェクトに参加して

三年四組

僕は、三年生になってから、初めて伊賀川プロジェクトに参加しました。葵中生として、七年以上も続く活動を一度は体験してみたいと思ったからです。

参加してみると、伝統を受け継ぐことの大切さや難しさを知る機会が

ありました。伊賀川沿いの草刈りは、一人では大変です。

でも、みんなでやれば、早く終わるし、充実感もあります。

伊賀川がきれいになって、僕たちが植えた花が伊賀川を彩っている風景を想像すると、とても美しいと思っ

たし、伊賀川沿いを通る人たちもいい気分になると思います。

今回植えた彼岸花の球根が、九月に大きな花を咲かせることを楽しみにしています。



## 自分と家族が

## 死なないための防災対策

講師 高荷 智也

## 死なないために

中学生がでる

三年四組

先日、高荷智也先生による、「死なないための防災対策」の講演をお聞きしました。死なないようになるという視点は初めてで、とても勉強になりました。

僕が講演会で最も印象に残ったことは、「平日の昼間に地震が起きたとき、すぐに動けるのは中学生」ということです。地震が起こると「クラッシュ症候群」が発生します。下敷きになった人をいち早く助けられるのは、中学生なのです。

地震が起きたとき、中学生としての命を救えるようになります。

防災アド高荷

家族が死なないための防災対策

日本の面積、世界の面積

日本	38万7千
世界	148,947,770

地球の陸地の0.25%が日本

1400

## 一学期を振り返って

### 一学期を振り返って

一年一組

あつという間の一学期。新しい仲間と過ごすことに、とてもうれしい反面、馴染んでいけるか少し不安でした。初めは慣れない中学校生活に戸惑いましたが、クラスの仲間と一学期で少しずつ仲を深め、協力し合うことができました。不安な気持ちはずいぶん無くなりました。クラスの仲間だけでなく、学年のみんなと交流することができたのが海の学習です。学年レクや地引き綱、キャンプファイヤーなどさまざまな経験を



通して、男女関係なく学級や学年の絆がより深まりました。また、学年レクの準備や企画する

学年みんなの笑顔が増えて、楽しんでもらえてうれしかったです。海の学習の合言葉である「広い心で築け友情! 最高の今を」を私は達成できたと思ひ、たくさんの人との交流ができ、とても充実した二日間でした。

これから過ごす新しい仲間との一年を大切に、友達の輪を広げていきたいです。

## 一学期を振り返って

二年五組

僕は二年生になって、初めて経験したことが二つありました。

一つ目は、級長になったことです。自分から立候補して級長になり、以前よりもみんなの様子が見え、細かいところに目を向けられるようになりました。学級会では、意見が滞ってしまつたとき、自分から意見を出すなどして、会を進めることもできました。

二つ目は、後輩ができたことです。僕は、後輩たちの手本となれるように常に意識して過ごしました。生活面では、葵中の生活信条でもある挨拶などが、当たり前のことを当たり前にできるように意識して行動しました。また、部活動の面では、どんなときも諦めず前向きに取り組みました。



▲2年生 学年レクの1コマ

二学期は、体育大会や部活動の新人戦、文化祭など、たくさん行事があるので楽しみです。先生方や先輩、後輩、学年の仲間たちと協力して、実りある二学期にしたいです。

## 来学期に向けて

三年一組

僕たちが三年生としてスタートして、一学期間が過ぎようとしています。さまざまなことを経験しましたが、いざばん心に残っていることは修学旅行です。自分で選んだテーマ別の研修、学級の枠を越えて班を作って楽しんだ

ディスニースhowerは、一人一人が楽しむところが学ぶところの切り替えをすることができ、とても有意義な旅行となりました。学年テーマである「Small bold」にあるように、二学期以降も輝き続ける学年でいたいと思います。

三年生は部活動も引退し、本格的に受験を意識していく時期に入っていきます。最近、休憩時間に課題に取り組んでいる友達を多く見かけたり、公立と私立高校・専修学校の説明会があったりと、受験生であることをより感じるようになりました。まだ、先のことだと思っていた受験まであと半年しかありません。目指す道のりは決して楽ではありませんが、僕は諦めることなく、自分で決めた目標を達成できるように日々、努力していきたいです。

## 修学旅行を終えて

三年一組

僕は修学旅行で、SMALL WORLD TOKYOや東京ディスニースhower、国会議事堂、浅草、東京ジョイポリスなどに行きました。

たくさんある中でも僕は、一目でSDGsについて深く学ぶことができました。メリットなどについて教えてもらい、そこから今の自分たちができることは何か考えることができました。

今後、話を聞いて分ったことを生かしてできることやできていないことを広い視点から考えられるようになりたいと思います。



# 表彰の記録

全中記念大会

三位

ハンドボール部

第五回新緑杯

優勝

バレーボール部

デンソーエアリービーズ杯

二位

バレーボール部

第六回桜杯

三位

バレーボール部

中日コンクール西三河北地区大会

小編成の部

銀賞 吹奏楽部

※市長杯の結果については、次号で報告いたします。

# 今後の予定

八月

二九日(月) 二学期始業式

三〇日(火) 四時間授業、給食なし

三一日(水) 給食開始

九月

一日(木) 第一回岡崎学力検査(二年)

六日(火) 生徒議会

一二日(月) 後期生徒会役員選挙

一四日(水) 体育大会一日目

一五目(木) ひまわりP

一七日(土) 体育大会二日目

二六日(月) 授業参観、夏休み作品展

新人戦激励会

二八日(水)～三〇日(金) キッズデイズ

新人戦(～一〇月一日)

# 葵が丘



変わらないもの

一年学年主任 鈴木 真利子

五月下旬の「海の学習」は二年ぶりに実施された。六月中旬の「修学旅行」も延期なく行われ、東京方面へは二年ぶりの実施であった。感染症対策をしながらも従来通りの学校生活を送れるようになってきた。

期末テスト後に行われた「葵夏祭り」。試行錯誤しながら楽しそうに準備したり、他学級の生徒をもてなそうとしたりする生徒たちには、どこの場面でも笑顔があった。

学校という集団の中では、時には人とぶつかることもある。しかし、それは人と人との交わりがあつてこそのものである。社会生活の中では人との接触なしにして生きていくことは難しい。それゆえ、学校での行事は、生徒にとつてこれからは生き抜くうえで有意義な活動の一つであると言つてもよいかもしれない。コロナ感染の流行で活動が制限されて以来、一層そのように思うようになった。

今、学校教育における行事のあり方を再確認すべき時が来ている。行事の再開に伴い、これを機によりよく変えた方がよいものと、変えずに継続するものを精選する機会にしたらどうかと思う。その中で、変わらないもの、変えてはならないものは、生徒が笑顔で生活できる学校生活なのではないだろうか。